

# Message from the CFO

最高財務責任者からの報告



昨年度、私たちが行った財務改革は、当期の好業績へとつながりました。バブル崩壊後3度目の景気回復と言われながら、建設コストの上昇と、借入金依存度の高さという不安定要因を抱える日本の建設・不動産業界にあって、私たちは上場企業の全体平均<sup>1</sup>を上回る増収増益を実現し、ROEは7期ぶりに7%台へと改善しました。また単体の株価は、昨年度のおよそ2倍に上昇し、5円増配し15円の配当(配当性向25.6%)とさせて頂くことができました。グループ全体の財務部門の責任者として改めてお礼を申し上げます。

当期は、バランスシートのさらなる強化を進め、販売用不動産の再精査、固定資産減損会計の早期適用、ホームセンターの店舗整理等で113億2,700万円の特別損失を計上したほか、土地再評価に係わる繰延税金資産についても見直しを行いました。これらの結果、株主資本比率は前期より1.1%高い45.3%となり、日本企業の平均(30.2%:2004年1~3月期)を大きく上回っています。

1: 東証上場内国会社1,382社連結決算 / 売上高+1.8%、営業利益+14.5%

2: 2003年度決算に関わる定時株主総会決議

## 当期財務諸表の状況

科目	2004	増減( )
売上高	1,224,647	40,104
営業利益	59,660	14,389
その他営業外収益	13,867	9,167
特別利益	6,633	9,092
税金等調整前当期純利益	67,896	223,053
当期純利益	37,256	128,644

科目	2004	増減( )
税金等調整前当期純利益	67,896	223,053
減価償却費	15,165	6,221
退職給付引当金の増減額	30,066	115,068
営業活動によるキャッシュ・フロー	69,658	29,199
投資活動によるキャッシュ・フロー	25,936	1,379
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,125	51,587

科目	2004	増減( )
流動資産	496,290	27,995
固定資産	591,367	34,778
投資その他の資産	239,635	29,354
投資有価証券	76,090	26,410
流動負債	279,453	10,641
固定負債	295,762	23,426
退職給付引当金	103,236	33,243
利益剰余金	313,214	23,374
其他有価証券評価差額金	12,957	12,181
資本合計	493,049	9,365
負債、少数株主持分及び資本合計	1,087,658	6,782

- ① 減価償却費の削減により、営業利益が増加
- ② 増益による営業キャッシュ・フローの増加
- ③ 年金運用好調、掛金一括拠出による退職給付引当金の減少
- ④ 収益面でのV字回復により、資本が充実
- ⑤ 株式の時価が増加したことにより、資本が増大

また、代行返上を行った厚生年金基金に対しては、積立不足解消に向け、約250億円の一括拠出を行いました。2004年9月にも追加拠出を計画しており、年金財政をさらに健全化させていきます。

また資本政策については、グループ経営の視点から、将来のM&Aも視野に入れ、柔軟に意思決定ができるよう、取締役会決議にて自社株取得を可能とする定款変更<sup>2</sup>を行いました。

大和ハウスグループは、グループの経営体制を整え、さらに「大きな未来」へ向けてチャレンジしてまいります。私は、無借金で健全なバランスシートのもと、キャッシュ・フロー重視の財務施策を進め、グローバル企業に比肩する高い収益力(ROE約15%)を指標に、末永い株主価値の向上を目指してまいります。

代表取締役副社長 小川 哲司